（参考情報）韓国農林畜産食品部公表情報

農林畜産食品部プレスリリース（2014年12月28日15時30分付け）
城南市の牡丹市場内での常時予察過程でAI検出

出典URL: http://www.maf.go.kr/list.jsp?&newsid=155446324&section_id=b_sec_1&pageNo=1&year=2014&listcnt=10&board_kind=C&board_skin_id=C3&depth=1&division=B&group_id=3&menu_id=1125&reference=&parent_code=3&popup_yn=&tab_yn=N

（機械翻訳等に基づく仮訳）

農林畜産食品部は、12月28日、AI常時予察*過程の中で京畿道　城南(ソンナム)市の牡丹(モラン)市場内の家きん販売施設で検出された高病原性AIウイルスについて、12月22日に家畜衛生防疫支援本部が常時予察用試料を採取し、農林畜産検疫本部に検査を依頼後、12月26日にH5N8AIウイルスが検出**され、12月27日に高病原性で最終的な確定診断がされたと発表した。

*農家、渡り鳥の飛来地、防疫脆弱地域（伝統市場、ガーデン型食堂等）等へのAIウイルスの侵入の有無を早期に把握し、防疫措置を先制的に行うために検疫本部、地方自治体等で一年を通じて検査（年間約14万件のうち在来市場3,300件）を実施

**常時予察の場合、試料採取、送付、精密検査等の確定までに約4～5日かかる

これと関連し、農林畜産食品部は12月26日にAIウイルス検出後、直ちに国民安全所、環境部、農村振興庁、市・道、生産者団体等に検出状況、緊急行動指針（SOP）に基づく機関別措置*を通報した。

*防疫地域（管理区域、保護地域及び予察地域）を設定せずに、当該施設等の移動制限及び洗浄消毒、中央疫学調査班による疫学調査、全国の伝統市場の一斉消毒等

ただし、伝統市場においてAIウイルスが検出された場合、家きん農場で発生した場合とは異なり、と畜されて販売される最終的な場所であることから、他の農場への伝播の危険性が低いため、その施設の閉鎖措置及び供給農場（仁川広域市　江華(カンファ)郡の地鶏農家）の疫学調査等の措置をとるべきである。

今年9月24日以降、伝統市場及び係留場で合計６件AIウイルスが検出されたが、鳥インフルエンザ緊急行動指針に基づき今回のような措置を実施しており、上記の理由から個別にプレスリリースを発表していない。

ただし、今後、類似の事例が発生した場合、検出事実を積極的に知らせる予定。

農林畜産食品部はH5N8が検出されたことにより、12月26日に牡丹(モラン)市場内の家きんの販売施設等で飼育していた家きん約3,200羽を殺処分・埋却し、12月27日以降導入禁止を命令するとともに、12月28日に当該家きんの販売施設を閉鎖した。

*在来市場で検出時、防疫地域（管理区域、保護地域及び予察地域）を設定せずに、施設の閉鎖、出荷農場の追跡・防疫措置、汚染の疑い施設設備の洗浄消毒の実施

農林畜産食品部は、通常AI発生地域とは異なる地域でAIが発生することにより、同AIの発生原因、侵入経路を究明するために中央疫学調査班を投入して疫学調査を実施中であり、疫学調査の結果に基づき関連防疫措置を最大限に迅速にとる予定だと明らかにした。

併せて、防疫当局は、畜産農家、系列企業、地方自治体等全てに対し、SOPに応じ与えられた役割に最善を尽すよう依頼した。特に、AIは疫学調査、消毒、予察及び遮断防疫が重要なことから、検疫本部の疫学調査の結果に基づき関連施設の出入り車両の消毒及び遮断防疫を強化する計画である。また、環境部及び地方自治体と協力して渡り鳥の飛来地の予察、糞便検査等の監視を拡大する一方、地方自治体主催の下、畜産農家や関連施設の消毒、予察及び遮断防疫の確認、出入り車両消毒を強化する計画だと述べた。

最後に、農林畜産食品部の関係者は、AIの発生及び伝播を防ぐために、農家単位の消毒、予察等の遮断防疫が最も重要であるため、これに対する積極的な参加と、最近、忠清北道、忠清南道地域で発生している口蹄疫の発生を防止するために、養豚農家、協会、系列主体のワクチン接種状況の確認と、地方自治体は家畜衛生試験所を通じた抗体形成率調査等の接種の検証及び啓蒙を強化するよう依頼した。

（本情報は、韓国農林畜産食品部が、12月28日に公表した情報について、機械翻訳等に基づき仮訳を作成したもの。）